

**■牛腸茂雄** **写真家。**身体的不自由をかかえながら、**コンボラ (何気ない日常スナップ)** 写真の代表する傑作を遺すも早世した。

ごちようしげお

新憲法公布・1946＝ **新潟県加茂市**で、金物店をいとなむ牛腸寅平、春江の次男に生まれる。6つ上に兄廣一、3つ上に姉春子がいた。

三大事件・・1949＝ 3歳：**胸椎カリエス**を患い、背中が曲がる障害を抱え、以後、寝たきりの孤独を味わう。

**朝鮮戦争始**・1950＝ 4歳：のちの回想には、'誰とも遊び相手びになってももらえず、ただ毎日食べて寝る、天井の節穴にとらめっこ。ただ一つ丸い小さな不思議な力を持つ、寝たままで外を映し一緒に気になれる鏡を愛した'とある。

**独立回復**・・1951＝ 5歳：

TV放送始・・1953＝ 7歳：加茂市立加茂小学校に入学。のちの回想には、小学校入学当時、友達ができないどころか、差別されたやりきれなさ、死んでしまいたいと訴えた母が、涙をためながら、いつもやさしく慰められ、どんなことにも負けない立派な人になるよう諭されたことを記している。兄や姉もさまざまに助けてくれた。

**55年体制始**・1955＝ **9歳**：

美智子妃・・1959＝13歳：卒業し、加茂市立加茂中学校に入学すると、

**安保闘争**・・1960＝14歳：

タイタイ病始・1961＝15歳：この年の{電波の日記念図画コンクール}中学の部で佳作、

全国総合計画1962＝16歳：卒業し、新潟県立三条実業高等学校商業科に入学。{公明選挙児童生徒ポスター・コンクール}で入選、

TV宇宙中継始1963＝17歳：{第3回県高校商業美術展}の課題作品「日立」が特選、

**東京リビッパ** 1964＝**18歳**：背骨が曲がり、身長は150cm程度・4つのコンクールで佳作、入選するなど、**デザインに才能を発揮するようになり、医者や親の心配を振り切って、**

大学紛争始・1965＝19歳：高校を卒業すると、**上京し、桑沢デザイン研究所リビングデザイン科に入学。**初めての東京人三浦和人と出合い親友になる。研究所に近い渋谷区神山町の{住吉荘}に下宿。課題が多くて、とても時間が足りなく、同級生が集まり、寝泊りすることも多かった。**次第に写真に惹かれ、**

美濃部都知事1967＝21歳：**基礎科を終え、同校のリビングデザイン研究科写真専攻に進学。大辻清司に師事し、早速、住吉荘の前で子どもの写真を撮っている。大型カメラは無理なので、小型カメラだけで撮って行こうと決意、**

霞ヶ関ビル・ 1968＝22歳：**卒業するや、写真専門誌に、カメラを見る子どもの傍らに、新たな子を宿す妊娠中の母親がいる、命のつながりを捉えた作品「こども」を発表して、頭角を現す。**以後、二十歳まで生きられるか分らないと医者に言われていたことから、自らの命の限界を感じながら、数々の写真子供を撮ったスナップショットが多く、子供の世界に入っていくような作品を残す。ノートに残された、詩、回想、自分のために毎日お使いしてくれた姉への手紙などから伝わる高度な文筆の能力も評価が高い。'三流程度で終わってしまうなら写真は止める。写真こそ生きる意味だから'などと語り、何気ない日常のなかに、'写っているのはすべて他人ながら共感する自分がいる'という作品を次々撮影し、

**ドルショック**・・ 1971＝25歳：**親友三浦の写真はクオリティ不足で、\*同窓の関口正夫による共著の、渾身の写真集「日々」を自費出版するも、時代風潮のなか、'牙のない若者'などと写真界の反応は冷たかったが、信頼する姉には'自分の写真はじっくり眺めることで味わいがでくるもの、何の変哲もないところにあえて賭けており、二刊目の出版を考えている。小さな頃でできなかったことを色々やりたい'と手紙し、**

**日中国交回復**1972＝26歳：**結核性リンパ腺炎を患い、東京大学医学部付属病院に入院中にも撮影、**

**石油ショック**1973＝**27歳**：

クランプール事件1975＝29歳：大田区多摩川園の建築事務所{アトリエ。ブロック}に勤める。**写真以外にも旺盛な創作意欲を見せ、個展{闇の精}では、インク・プロットの作品を発表して、ロールシャッハ・テストの日本への紹介者である心理学者片口安史を感動させ、仲間と短編映画「THE GRASS VISITOR」「GAME OVER」など、完成はしなかったものの、8ミリ、16ミリの映画制作にも挑戦している。日々出会う人々を撮りためて行き、子どもの写真を撮った時には、その子どもに自分の写真を撮らせて楽しんでいる。**

田中角栄逮捕1976＝30歳：以後4年、東京造形大学の、以後2年、日本工学院専門学校の非常勤講師。目黒区大橋の{八雲荘}に移住。誕生日の前日には、**それまで自分がやってきたことに、一つの決着をつけようと、**

JALハイジャック・1977＝31歳：5年以上撮りためた写真を丹念に再構成、冒頭に生まれたばかりの赤ん坊の写真を置き、子どもを主に次々と見知らぬ人々の眼差しを捉え、一枚のセルフポートレートのアとの最後に子どもたちが霧の中にフェイドアウトしていく不思議な作品を載せ、真ん中のページには、母春江のポートレート、一枚目には生まれたばかりの甥、また、姉の写真も載せた、謎めいた**\*写真集「SELF AND OTHERS」を自費出版、イタリア文化会館による{11人のイタリア写真家と11人の日本写真家～目・カメラ・現実}展に選ばれ、そのカタログの自己紹介文には、精神医学に興味を惹かれ、カウンセリングの糸口を見出そうする真摯な姿が偲ばれる。**

成田衝突・・1978＝32歳：佐治嘉隆とデザイン事務所{ギャラクシー}を設立、事務所近くの調布市小島町のアパート{ミントハウス}に移住。**写真集「SELF AND OTHERS」で、日本写真協会新人賞を受賞。**

**貿易摩擦問題**1980＝34歳：**心理学者片口安史と共著で、奇妙でエロティックなインク・プロットの画集「扉をあけると」を出版、**

・・・・・1981＝35歳：**写真集「見慣れた街の中で」を自費出版、**

**中曽根内閣**・1982＝**36歳**：父寅平が死去。**マーブリングの連作「水の記憶」の出版を計画するもかなわず、**

ドイツユーラント・ 1983＝37歳：体調が急速に悪化、{ギャラクシー}を解散し、**帰郷してまもなく、心不全のため、'ネバーギブアップ'の言葉を遺して、没した。**親友の写真家三浦和人は、牛腸の作品のネガフィルムを大切に保存し、展覧会などがあると、彼のために、プリントしてきた。1992年に季刊誌{deja-vu}第8号で特集が組まれてから、再評価する気運が高まり、1994年には未来社から「SELF AND OTHERS」が再刊され、2000年には同作品を題材にしたドキュメンタリー映画も製作・公開された。